

中央区内景気動向調査

平成30年2月調査結果

平成30年3月30日

中央区

総 括

平成 30 年 2 月の動き

中央区内における 2 月の現状判断 D I は合計で 54.5 と、前回調査と変わらず横ばいである。景気の先行き判断 D I は合計で 57.5 と前回調査から 6.5 ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成29年	平成30年		前回調査
合計	10月	12月	2月	からの変化
現状判断 D I	53.1	54.5	54.5	(0.0)
先行き判断 D I	54.6	51.0	57.5	(6.5)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、平成30年2月調査の調査票発送は2月7日（水）、回答期限は2月16日（金）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は50名、有効回答率は100.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で57.5と前回調査から6.5ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは62.0と、前回調査から7.0ポイント上昇し、企業動向関連DIは53.0と、前回調査から6.0ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなる」と回答した人の割合が14.0ポイント増加し、「変わらない」、「やや悪くなる」と回答した人の割合がそれぞれ8.0ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

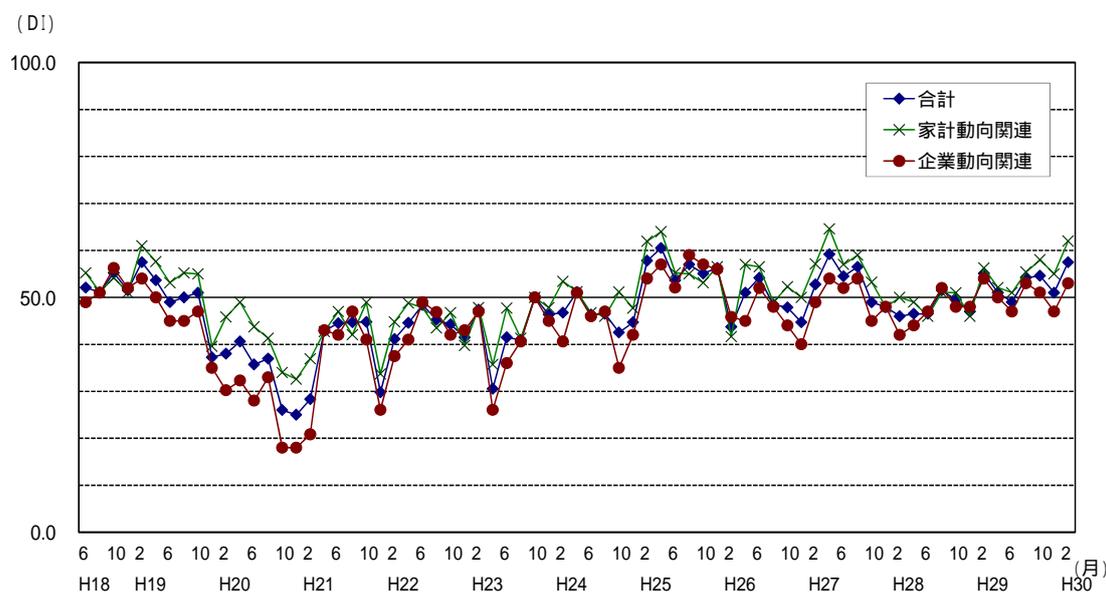
(DI)	平成29年		平成30年		(変化幅)
	10月	12月	2月		
合計	54.6	51.0	57.5		(6.5)
家計動向関連	58.0	55.0	62.0		(7.0)
小売関連	57.1	55.4	60.7		(5.3)
飲食関連	-	-	-		(-)
サービス関連	53.6	60.7	64.3		(3.6)
住宅関連	-	-	-		(-)
企業動向関連	51.0	47.0	53.0		(6.0)
製造業	50.0	40.0	50.0		(10.0)
非製造業	51.3	48.8	53.8		(5.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
		平成29年	10	4.1%	30.6%	46.9%
	12	2.0%	28.0%	44.0%	24.0%	2.0%
平成30年	2	4.0%	42.0%	36.0%	16.0%	2.0%
(変化幅)		(2.0)	(14.0)	(-8.0)	(-8.0)	(0.0)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

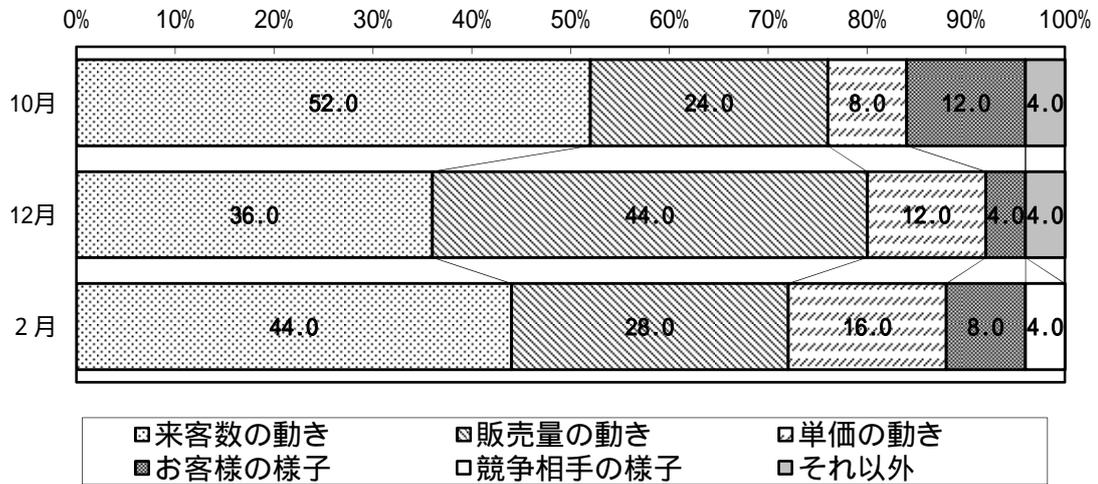
(D I)	平成29年		平成30年	
	10月	12月	12月	2月
合計	52.0	53.5	53.5	56.0
家計動向関連	53.0	57.0	57.0	54.0
小売関連	57.1	57.1	57.1	57.1
飲食関連	-	-	-	-
サービス関連	60.7	64.3	64.3	57.1
住宅関連	-	-	-	-
企業動向関連	51.0	50.0	50.0	58.0
製造業	50.0	40.0	40.0	55.0
非製造業	51.3	52.5	52.5	58.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

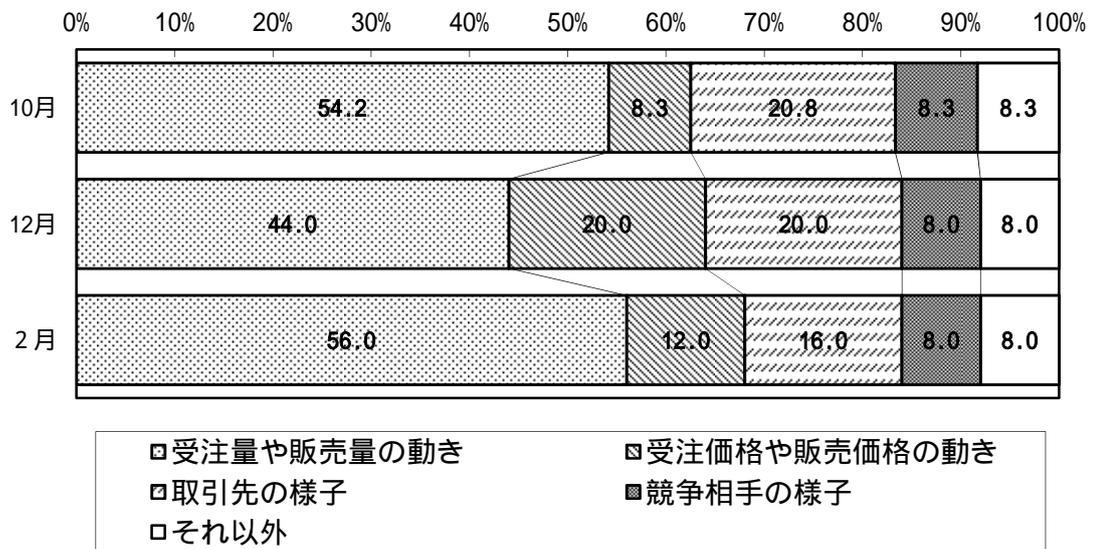
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	一般小売店[事務用品](営業担当)	販売量の動き	・年度末の需要で動きが良くなり、件数も増えている。前月比20%増という状況である。	
		一般小売店[食品](店長)	販売量の動き	・近隣のマンションが完成し、少しずつではあるが、以前より人の流れを感じる。	
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・関東地方への降雪の影響があったものの、防寒アイテムの売上は堅調に推移している。また、婦人雑貨、特選衣料雑貨も同様である。	
		百貨店(広報担当)	単価の動き	・冬物コートやマフラーなどは、最低に近い価格帯の商品の動きが好調である。ファッションが好きで購買意欲の高い客だけではなく、必要に応じて堅実に買物をする客の購買も増えているとみている。	
		百貨店(総務経理担当)	競争相手の様子	・他の百貨店では紳士服が活況を呈しており、婦人服の色合いも変化している。当店でも1月は来客数が増えている。	
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・2~3月の移動時期に入り、販売数に上昇の気配がみられ始めている。	
	変わらない	一般小売店[和菓子](経営者)	単価の動き	・低価格の商材が出ている。	
		一般小売店[文具](販売担当)	販売量の動き	・1月は前半は良かったものの、後半の大雪後は冷え込んだ。2月に入ってから回復基調である。	
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・例年のない厳しい寒さや降雪により、シニア層を中心に買物をするマインドが縮んでいる。	
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・例年2月は低調期だが、新年会シーズンの流れのまま、今月も予約が埋まっている。土地柄、座敷の利用が多く、カウンター席やテーブル席は仕方なしという利用が多い。	
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・宿泊業はインバウンドの増加に伴い来客数が増えているが、同業者又は異業種からの参入が増えているので、楽観はできない。	
		その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・この頃、近隣周囲の飲食店から夜遅くまでにぎやかな声が聞こえてくるようになった。少しは街の景気が良くなっているのではないかと。	
		スーパー(店長)	来客数の動き	・寒波の影響により客足が鈍い。	
	やや悪くなっている	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・今月の来客数は前年同月比で98%となっている。訪日外国人客は前年同月比で120%と好調な反面、国内客が大幅に減少している。	
		高級レストラン(副店長)	来客数の動き	・2月は例年忙しくないが、天候の影響もあり、前年と比べて来客数が少ない。	
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・今年は異常なほどの寒さで、客が出てきてくれない。	
		悪くなっている	-	-	-
	企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
		やや良くなっている	出版業(経営者)	それ以外	・消費者の財布のひもがいくらか緩んでいる気配がある。
輸送業(従業員)			受注量や販売量の動き	・受注量、売上量の動きが前年同月比で増えている。	
不動産業(企画担当)			受注価格や販売価格の動き	・オフィスの空室率は依然として低水準で推移しており、新規成約賃料の上昇と増額での契約更新の状況が続いている。	
卸売業[機械器具](営業担当)			受注量や販売量の動き	・年度末に向け、受注済の納品、売上で景気は良い。駆け込み受注もある程度出てくる。	
その他サービス業[造園・園芸](営業担当)			受注量や販売量の動き	・年度末に向けての予算消化のため、注文が決まりやすい。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業 [ビルメンテナンス] (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・機器トラブル等の発生しやすい時期であるため、多少価格が上がっても早急な対応を求められることが多々ある。
	変わらない	出版業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・年度末を迎えるが、例年ある駆け込み需要が今年はなく、3か月前と変わらない。
		印刷業・製本業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・例年、年度末に向かって仕事量が増加するが、今年動きが鈍いようである。
		通信業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・客からの発注は順調に推移している。
		卸売業 [機械器具] (経営者)	取引先の様子	・どの会社も動きが悪い。
		その他サービス業 [ビルメンテナンス] (営業担当)	競争相手の様子	・恒常的に人手不足が継続するなかで、人件費が増大しており、景気回復の実感はない。
	やや悪くなっている	建設業 (営業担当)	競争相手の様子	・受注競争が激しくなっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・近年、当地域周辺に大型施設ができていますが、数か月が経ち、客入りが減少している。
	悪くなっている	-	-	-

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	衣料品専門店(店長)	・季節の変わり目で、単価が2,000円上昇する見込みがある。
	やや良くなる	一般小売店[靴](店長)	・株価が、不安定であるが上昇している。
		百貨店(総務担当)	・中国の春節を機に、訪日外国人客の買上は堅調に伸びている。国内客についても、春らしい気候が進んでいくことで、後退していない消費マインドは復調していく。
		百貨店(総務担当)	・免税売上の伸長や、株高に伴う資産効果の影響もあり、ラグジュアリーブランドを中心とした高額品などが堅調に推移している。
		百貨店(総務経理担当)	・2極化する消費者を同時に飲み込む当地域では、最近の富裕層の行動を見て、消費マインドが上がるのではないが。
		スーパー(店長)	・周辺の人口が増えている。
		コンビニ(店長)	・平昌オリンピックの余韻や、東京オリンピックに向けての期待値が高まり、全般的にヒトやモノの動きが活性化していくのではないが。
		高級レストラン(副店長)	・3~4月の予約状況は前年と比べると良い傾向にある。
		一般レストラン(経営者)	・今が一番悪いと思うので、これから少しずつ暖かくなってくれば、修学旅行生、観光客なども徐々に増えてくる。
		都市型ホテル(経営者)	・宿泊業は、来客数が増えてもキャパシティが決まっているので、単価の上昇でしか増収は見込めない。
		旅行代理店(支店長)	・低迷していた海外旅行の申込がやや復調傾向にある。
	通信会社(営業担当)	・例年の繁忙期に入り、春先まで身の回りの景気は良くなるとともに、忙しくなる。	
		競馬場(職員)	・入場者数が安定して前年比を上回っている。
	変わらない	一般小売店[文具](販売担当)	・米国の景気など、経済が不安定である。
		一般小売店[食品](店長)	・新しい住民が増え、1~2月と寒いながらもやや上向き傾向にあったが、来月スーパーが閉店するので見通しがつかない。
		百貨店(広報担当)	・全体で見ると、訪日外国人客の売上は、前年同時期の伸びが大きかっただけに、やや鈍化が見込まれる。また、春夏物の商売が始まる頃も、依然として寒さが厳しく、足元の動きは鈍い。
		スーパー(店長)	・米国の株安の影響で景気は一時的に下がると思うが、消費への影響は変わらないとみている。
		高級レストラン(経営者)	・立地条件のみ取り上げれば、アクセスの良さにより景気上昇につながる。国際的な催事や研究会等も、今後多く企画されるとみている。
		一般レストラン(経営者)	・来街者の動きは、ただ街を歩くのみで商品の購買意欲を増進させることはなく、売上の増加にはつながらない。
		その他レジャー施設(経営者)	・当店でさほど大きな変動はない。少しでも良くなることを望んでいる。
やや悪くなる	一般小売店[和菓子](経営者)	・高価格帯の商品を勧めても、ほとんどの客が手を出さない。	
	一般小売店[事務用品](営業担当)	・年度末だから増えているだけで、底上げで仕事が増えているという実感はない。	
	通信会社(営業担当)	・先行き不安の表れか、株価が不安定である。	
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	輸送業(従業員)	・契約増に伴う売上増が見込まれる。
	やや良くなる	新聞業(営業担当)	・平昌オリンピックのスポンサー企業を中心に、関連する広告出稿が見込める。企業業績も軒並み好調なので、3月の年度末に駆け込み出稿がそれなりにあるかもしれないが、大きくは期待できない。6月のサッカーW杯ロシア大会でも、日本代表の活躍次第だが、関連出稿がそこそこあるとみている。
		出版業(経営者)	・2~3か月先の短観なら、花見時期からゴールデンウィークにかけては良くなる。
		建設業(経営者)	・中小企業のオーナーが設備投資を活発化させていくようである。
		建設業(営業担当)	・受注量が増えている。
		不動産業(企画担当)	・オフィスビルでは館内増床の引き合いが多く、需給バランスがひっ迫している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		卸売業〔飲食品料品（鮮魚）〕（経営者）	・インハウンドの増加や株価上昇の影響により、東京オリンピックまでは良くなる。
		卸売業〔機械器具〕（従業員）	・関東以北の受注量はほぼ想定範囲で着地する見通しである。しかし、マーケット全体のボリュームは右肩下がりであり、来期も厳しい状況が続く。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・4月以降、年度が変わる会社も多いため、価格等に変動が見込まれる。
	変わらない	出版業（営業担当）	・今のところ特に大きな案件もなく、国の景気対策もこれといって期待できるものがない。ただし、物価だけは上がっており、生活は楽になっていない。
		建設業（経営者）	・現状のまま推移する。
		通信業（営業担当）	・国際情勢に不安定要素が多い。
		通信業（営業担当）	・東京オリンピックに向けて、ホテル業界では新ホテル開業への動きもみられる一方、コスト削減に向けた拠点集約を展開する等、業界により分かれる。トータルでは大きく変わらない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・3月決算企業の第3四半期業績の状況はおおむね好調な印象であるものの、現業ベースだけの数値で見た場合、営業外損益に扱われている、あるいはコア事業以外の付帯事業の上積みがある等、必ずしも堅調とは言えない部分も感じられていることから、変わらない。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・良くなる条件は見当たらないが、特に悪条件もない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・取引先各社からの情報では、この先も今の状態が続くのではないかとのことである。
		経営コンサルタント	・常連客がいる店舗は好調だが、常連客がおらず厳しい店舗が多い。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・4月からの無期労働契約への転換申込みが本格化するなか、収益に対する更なる圧迫が強まる。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・3月末までの注文も多く、売上は順調であるが、4月以降は分からない。
	やや悪くなる	印刷業・製本業（経営者）	・インターネットの利用が一層進み、今までパンフレットや申込書を紙で印刷していたものが、必要な人には紙で渡し、それ以外はインターネットからのダウンロードが可能な形に変化していく。
		印刷業・製本業（営業担当）	・世界情勢や世界経済への不安に伴う更なる株価下落による景気の冷え込みが、今後2～3か月先、それ以降の不安要素を増し、やや悪くなる。
		建設業（営業担当）	・東京オリンピック前までに景気は悪くなる。
	悪くなる	卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・3月末を境に、一度大きな受注の流れが止まりそうである。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	13
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	6
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0